

C-22 衿の構成要素による分類

県立新潟女短大 ○平 沢 和 子

目的・衿の形態，及びその基礎的構造を系統的に把握することにより，衿の形態設計を理論的に行うことを目的として，従来用いられている各種の衿の構成要素による分類を試みた。

方法 1) 衿の定義の検討 2) 分類は三分法，自然的分類法とした。その区分原理は衿を構成する要素を抽出しこれに基いた。要素の抽出には，衣服における衿の出現とその発達過程，及び現代の衿について名称が与えられている衿170種，デザイン画，250種について分析し，衿の現象に影響を与える因子を抽出した。特に新しく設定した「衿角度」については，衿のモデル実験によって再現し，確かめた。

結果 1) 衿の定義を次の如く仮定した。「身頃衿つけ線に，身頃とは別に裁断してとりつけられた衣服の部分としての衿を指す。」 2) 抽出した衿の構成要素は次の5つである。

1. 身頃衿つけ線 2. 衿巾 3. 衿角度(仮称) 4. 衿腰 5. 返り 3) 構成要素によって衿を分類すれば次の如くである。1. 頸部にそって立った衿——立衿 2. 頸部にそって立ち更に折り返った衿——折り衿(仮称) 3. 身頃の一部が折り返り，1又は2に加わったもの——開き衿(仮称)・従来用いられている衿はすべてこの3種とその複合形として分類することができる。従って部分的相違を持つ構造形態は，立衿，折り衿，開き衿の3種であり，3種の衿の設計法を確立することにより，すべての衿にこれを適応させることができると考えられる。